

明星大学における学生ボランティア活動の 広がりと支援

渡戸 一郎

(明星大学 教授 ボランティアセンター長)

畑野 理美

(明星大学 ボランティアセンター職員)

一 明星大学ボランティアセンターの開設と学生 ボランティア活動

明星大学は二〇〇八年五月、ボランティアセンター(愛

称「きらきらボランティアセンター」…略称「きらボ」を

開設した。センター開設に当たり、学長の諮問を受けた開

設準備委員会が出した答申には、「本学の有する知識・技

術を活用して、学内外から要請される緊急的あるいは継続

的な福祉・教育・環境・災害等のニーズにボランティア精

神をもって対応し、社会貢献することを目的として活動を行
う。その活動は研究教育活動に資するものとす」と述
べられており、教育研究活動のみならず大学の社会貢献活
動の拠点としても本センターが位置づけられている。

学生ボランティア活動は、本学の教育理念である「和の
精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことを具現化
するとともに、「体験教育」の実践の場でもある。本セン
ターは、学生一人ひとりの優しい気持ちや柔軟な感性と問
題への関心を大切にしながら、一人でも多くの学生が「ま



設立1周年記念シンポジウム

日は学生・教職員のみならず、多摩地域の市民、ボランティア活動推進機関や福祉施設の関係者、近隣大学の学生ボランティアなど約百名の参加者を得て盛会となり、学生ボランティア活動や大学ボランティアセンターのあり方に対する多くの示唆と励ましをいただいた。

ず身近な社会に向かつて貢献する」というチャレンジ精神を涵養することを支援している。

昨年四月には本センター設立一周年を記念して、シンポジウム「大学発・市民力へ」を本学日野キャンパスで開催した。当

二 きらボの事業概要

本センター（きらボ）では次のような事業を展開している（以下は主に二〇〇九年度の場合）。

（一）ボランティア情報の提供

センターには、近隣の自治体、社会福祉協議会、NPO等から多くのボランティア募集が寄せられる。また、講演会やイベントなどの情報も集まってくる。これらの情報を素早く正確に伝達し、一人でも多くの学生が活動に参加することに努めるため、センターの掲示板、登録学生用メーリングリスト（二〇一〇年一月現在、一五〇名が登録）、学天（学内専用サイト）、学生ボランティア募集一覧（配布用）で閲覧可能となっている。

具体的には、学内ボランティア活動への参加啓蒙（エコキヤップ回収、清掃活動、身障学生支援）／募集掲示板の工夫（分野別に見やすい定型様式での掲示等）／Web・PDPの有効活用（重点ボランティア活動の広報工夫）／登録学生対象の特別メール便の開設（募集案内の速報）／報道関連機関への適切な広報活動の推進（広報課関連）／

「きらボ通信」の定期発行（年二回）などを行っている。

なお、「ボランティア募集情報の取り扱いに関する指針」に基づいて、学外からのボランティア募集情報を受け付けている。これによって良心的ではない目的のボランティア募集を排除し、学生たちが安心して活動に専念できる環境を確保できるよう努めている。二〇一〇年一月現在、外部団体登録は五五団体となっている。

(2) ボランティアに関する相談の受付

ボランティア活動の探し方、参加するに当たって不安なこと、よくわからないこと、注意点などについて、センターのスタッフが常時相談に応じている。また、相談記録の充実（記録簿整備、迅速回答の励行）、相談事例集「身近なボランティアQ & A集」の作成、相談対応者の能力向上（各種研修会を通じスキルアップに努める）を行っている。

(3) ボランティア活動をしている学生の支援

ボランティア活動をしている学生や学生団体に対し、相談や交流、活動発表会などを通じて支援している。また、センターの学生ボランティアスタッフとしても活動の場を提供している。具体的には、定期的連絡会議の支援（学生

ボランティアグループ会議 隔週開催）、ボランティア活動の実績把握（団体・個人別にデータ蓄積・検索）、連絡用大型ホワイトボードの設置（各ボランティア団体が自由活用）、ボランティア活動団体紹介コーナー常設（パネル展示方式）、サークルミーティングのための場の提供などである。

(4) ボランティア活動に関する講座やセミナーなどの開催

各種ボランティア講座や地域におけるボランティア活動プログラムを企画・実施している。具体的には、センター設立一周年記念シンポジウム（四月）、ボランティア活動団体紹介パネル展示（四月上旬より常設）、ミニ講演会（四月上旬）、学生ボランティア活動紹介（六月）、ノートテイク講習会（ガイダンス一回、実践講習会四回）、夏の学生ボランティア活動報告会（一〇月）、手話講習会（二月）などがある。

(5) 近隣の地域や学校などとの連携・協働の推進

地域の多様なボランティア・市民活動団体、施設・学校などとネットワークを構築し、さらに近隣のボランティアセンターなど中間支援組織と連携・協働している。また学

生のニーズに応じて情報提供や活動を通して各種団体との交流も行う。さらに学生スタッフが中心となり、他大学のボランティアセンターと交流を行っている。

三 明星大学におけるボランティア活動の広がり

本学では教育や福祉関連のボランティアサークルが活発に活動してきた歴史があるが、センター開設以降も新しいグループが立ち上がり活動を始めている（二〇〇八年九月に大学近くの七生福祉園で活動している「ひまわり」。二〇〇九年四月にフィリピンの子どもたちを支援している「あすなるの会」など）。また、学生たちがさまざまなプログラムを企画したり、活動に参加したりしている。

(1) 学生ボランティアアグループ会議

センターに登録している学内一団体の学生ボランティアアグループの代表とセンターは、相互の連携を図るために主に昼休みに隔週で会議を開催している（会場はボランティアセンター、議事進行は学生）。

(2) 学生スタッフ

本センターの学生スタッフの役割は大きく、学生に見やすいボランティア情報の整理・提供、ボランティア意識啓発のためのイベント企画、ボランティアに関する相談会などをサポートしている。こうした役割を担うことで、学生が安心して活動できる環境づくりを目指している。

(3) 夏の学生ボランティア報告会

毎年一〇月に「夏の学生ボランティア活動報告会」を開催している。助言者に近隣の市民活動センター等の経験豊富なスタッフを迎え、学内の福祉、教育、環境など五つのボランティア団体が、「学生ボランティア活動のめざすものと課題」をテーマに、思い出深い夏の活動報告をした。学内外五九名参加。終了後の交流会も盛り上がった。

(4) 助成採択

本センターの紹介により、学生ボランティア団体が助成に応募し、三団体が採択された。

- ・「ひまわり」（第八回ソニーマーケティング学生ボランティアファンド、二〇〇八年）
- ・「あすなるの会」（第九回ソニーマーケティング学生ボラ

特集・ボランティア

ンティアファインド、二〇〇九年)

・「めばえの会」(財団法人学生サポートセンター主催平成二一年度「学生ボランティア団体助成」)

(5) 主な学内ボランティア活動

①エコキャップ回収活動

学内の「Idear研究会」を中心としたエコキャップ運動は、リサイクル用にペットボトルのキャップを集め、海外の子ども達にワクチンを提供する活動である。現在大学構内に一八〇箇所の回収箱を設置し、一二月までに約四一九・三kgのキャップを集めた。これは二〇九・七人分のポリオワクチンに相当する量になる。

②緑のカーテンとホタル鑑賞会

緑のカーテン…温暖化対策や食料自給を考える目的で、構内の渡り廊下の片側に、プランターでゴーヤーを栽培した。学食からの食品廃棄物から作った堆肥と割り箸を焼いた炭をプランターの土壌に混ぜて用いている。夏場は緑のカーテンとして機能し、廊下を通る人たちにやすらぎを与えた。

ホタルの見学ツアー…構内にゲンジボタルの生息場所があり、環境ボランティア活動としてビオトープ作りを目指

して湧水周りの整備を行った。季節になると湧水に飛ぶホタルは、DNA分析の結果、貴重な固有種であることが分かっている。二〇〇九年は春先にゴミを拾い、六月末のホタルの羽化に備えた。六月下旬から七月上旬まで五回のホタル見学ツアーを実施し、光の乱舞に感動した(近隣住民・学生参加者五〇名)。

③ゴミ拾いボランティア

学生ボランティア団体をはじめ個人参加のボランティア学生たちは、自主的に大学周辺・近隣地域のゴミ拾い活動を実施している。学生課企画のキャンペーン&クリーンキャンペーン(喫煙マナーの



ゴミ拾いボランティア

向上)にも参加し、今後、地元自治会とも連携したモノレール駅周辺での活動が予定されている。

④学生カフェのオープン

今年一月、日野キャンパス内に障害者就労支援や地域貢献を通じて学内の活性化を目指す学生カフェ(二五〇㎡)が正式オープンした。学生たちが二年前から企画検討してきた夢がここに実現した。基本理念に「学生発・明るく活気あるキャンパス・ともに生きるまち」づくりを掲げて、障害をもつ人びととの協働による就業支援や日頃からお世話になっている地域の方々への恩返しと社会貢献を実現する体験教育を目指している。これは日野市内でベーカーリーカフェを運営しているNPOやまぼうし(伊藤勲理事長)との連携により実現したもの。店内ではフェアトレードコーヒーやジュース類、さらには富士山の溶岩を使った「溶岩窯」を設置して、学生たちが障害者スタッフとともに、焼きたての美味しいパンやピザを提供している。

(6) 主な学外ボランティア活動

①学生教育ボランティア

多摩地域の大学、自治体、企業、NPOなどで構成される「ネットワーク多摩」が企画し、小・中学校等で「お兄

さん・お姉さん」先生としてボランティア活動を希望する学生を募集。活動内容は、授業補助やパソコン指導、音楽指導、図書室指導、学習相談や部活動・学校行事のお手伝いなど多岐にわたり、学校ごとに異なる。活動先を大学近隣から選べば、講義の空き時間に活動できる。例年、教職希望者はもちろん、ボランティア活動に興味がある学生や子どもたちと接するのが好きな学生などが活動している(二〇〇九年度述べ参加者二八名)。

②CO2削減運動

日野市環境保全課の「ふだん着でCO2をへらそう」という運動に学生が参加し、市役所職員や市民ボランティアとともに啓発活動を行った(参加者七〇名、理工学部の研究室も協働)。

③交通安全ボランティア

学生ボランティアが秋の全国交通安全運動期間中、日野市内交差点等において横断サポートや交通ルールの遵守とマナー向上等の広報啓発活動を行った。日野警察署ならびに交通安全協会から表彰された。

④あきる野一〇〇km徒歩の旅

五日間かけて西多摩一〇〇kmの道のりを小学校四〜六年生の子どもたちとともに歩く。参加する人びと「生きる

力」を育みながら郷土愛を抱く機会を体験する（参加者6名）。

四 学生ボランティア活動支援の課題

本学の「学生生活実態調査」（二〇〇八年度）では、ボランティア活動に「参加したことがある」学生は三四・六％、「参加したことはないが機会があれば参加してみたい」学生は四三・〇％となっているが、センターが開設されたことで、学生生活の中で行われるボランティア活動が広がり、活動する学生たちにとってさまざまな学びの機会となっている。

教職員による運営委員会の下に置かれる本センターの職員は二名である。そこに学生スタッフや熱意ある教職員が加わり、学生ボランティア団体メンバーもほぼ毎日出入りすることで、センターは活気ある空間になってきたが、ボランティア活動にあまり関心がなかった学生でも、ぶらりと寄れるオープンな雰囲気づくりと、多様な学生が魅力を感じられるようなプログラムの開発が課題である。センター職員のうち一名は日本ボランティアコーディネーター協会の研修にも積極的に参加し、コーディネーターとしての

スキルを身につけつつある。

また、シンポジウムや報告会などを契機に近隣大学の学生ボランティア団体との交流も徐々に広がりがつつあるが、今後は多摩地域等の他大学ボランティアセンターとも連携する必要がある。さらに近隣地域の福祉、環境、教育などの市民活動団体や施設の方々とのネットワークも広がってきたため、協働プログラムの可能性も探っていきたい。

今日の学生がもつ社会関係はともすると小さくまとまる傾向があるが、ボランティア活動を通じて学生たちの社会経験が豊かになり、現代世界への視野が広がることが期待される。本センターを拠点にボランティアな諸活動を通じて、学生たちが「Decent Citizen」として巣立っていくことを願っている。

なお、本センターの概要や「きらボ通信」は本学ホームページから閲覧可能となっているので、ご覧いただければ幸いです。

<http://www.meisei-u.ac.jp/clife/volunteer.html>